

## 放射能事故に備えて気をつける事

### ●はじめに

今回の福島原子力発電所における事故は、重大な結果(既に重大ですが)へ向かう可能性が高くなってきました。予断を赦さない状況が続いています。関東から北へ直接向かうルートを通して宮城県に向かう時には、福島原発の近距離を通らざるを得ません。その時にヒバクのリスクがないとは言えません。原子力の問題は放射能の問題です。放射能とは、放射線を出す能力の事を表し、放射線を出す物質を放射性物質と言います。原発事故によって放出される放射性物質の中には、ヨウ素131、セシウム137、プルトニウム239など猛毒の物質が含まれています。これらの放射性物質は、一旦身体に取り込まれるとベータ線、ガンマ線、アルファ線などの放射線を出して人間の身体の組織を傷つけ続け、ガンなどを引き起こす原因となります。これらが細かいチリとなって大気中を漂い、あるいは雨に混ざって落ち、身体に付着たり、吸い込まれたりして体内に取り込まれることをヒバクと呼びます。原発事故で放出される放射線は核分裂によって出てくるこれらの危険なウラン、プルトニウム、セシウム、ヨウ素などからのもので、レントゲン撮影の放射線量と比較することはできません。「安全です」という言葉を鵜呑みにする事は出来ません。この点を抑えた上で、以下に事故に備えてヒバクを避けるための留意点を記します。

### 1. 放射線のレベルについて

放射線量を表す数字は1シーベルト=1000ミリシーベルト=100万マイクロシーベルトです。1ミリシーベルトは、1000マイクロシーベルトを表します。参考までに放射線従事者が一年間で浴びる限度が50ミリシーベルトとされていますが、前述のように、放射線の種類が全く違います。どこまで安全という目安はありません。また、報道などで注意しないとイケないのは、「1時間あたり」ですから、その場に留まる場合、総滞在時間に掛け合わせないとイケません。

### 2. 風向きに注意を払い、風下に入らない

(線香を持参すると風向きを判断し易い)

	1 羽/秒	2 羽/秒	4 羽/秒	6 羽/秒
10 km	約3時間	約1時間半	40分	30分
30 km	8時間半	4時間	3時間半	1時間半
50 km	14時間	7時間	3時間半	2時間半
100 km	28時間	14時間	7時間	4時間半
陸上の状態	煙がたなびく	顔に風を感じ、	木の葉や小枝	砂埃が立つ

		木の葉が動く	がたえず動く	
--	--	--------	--------	--

(事故現場からの距離と風速による放射能が到達する時間)

※風の弱い日と、雨の日は注意！風が弱いと汚染が濃くなり。雨の日は汚染が遠くまで広がる。参考までに、チェルノブイリ原発事故（炉心が吹き飛ぶ事故でしたから、今回はまだそこには至っていません）の時には50－90km離れた村でも子どもの半数が甲状腺疾患になりました。

### 3. 事故現場からの距離と防災

#### ☆10キロ～100キロの地域

- ・30キロ以下の風下地域はすぐに脱出。風下以外の地域は屋内待避。状況次第で避難する
- ・風下に当たる地域は逃げる用意を！
- ・雨や曇り、強風の時には屋内待避！雨の時には高い濃度の汚染が広がる
- ・窓から離れる
- ・放射能を含んだ風が通っている間は屋内でも濡れタオルで鼻と口を覆う。外気を入れない

### 4. 避難の時の服装は肌を露出しないこと！雨や雪に濡れないこと！

雨合羽（帽子付き）などを上着の上に着る／ゴム手袋着用／長靴などを履く／マスク着用袖口や、裾をガムテープなどで巻く

※避難時に着ていたカッパ、手袋などは、屋内に入る前にビニール袋に入れ廃棄する

### 5. ヨウソ剤もしくはヨウソ分の多いコンブなどを食べる

原発事故の時に放出される放射性ヨウソは甲状腺に取り込まれます（分けても子どもたちはそうです）。そこで薬局などで手に入るヨウソ剤（ヨウ化カリウム丸）を準備して、万一の時に服用すると良いでしょう（ただし服用量や、甲状腺障害などの方は服用できない場合があるので、説明を十分に受けて下さい）。また、予めヨウソ分の多い昆布（とろろ昆布でもおしゃぶり昆布でも良いです）を食べておくと良いです。多めに準備して行き、被災地の子どもたちにも分けてあげると良いと思います。ただしこれは放射性ヨウソのみへの対応策です。